

2019年度・東広島市民講座報告

「海洋及び海洋生物等の未知分野解明に挑戦する」

郷 秋雄

市民講座「海洋及び海洋生物等の未知分野解明に挑戦する」（2019年7月5日、12日、19日、26日の各金曜日、13:30～15:00計4回）が無事終了した。出席者数は各回とも15名前後であった。

4回の講座の内容は、「第1回：水産系を中心とした日本の練習船並びに調査船の概要と活動、第2回：広島大学豊潮丸の搭載機器及び教育・調査研究航海の概要、第3回：国際航海に於ける豊潮丸運航の時系列的紹介、第4回：瀬戸内海の特徴と教育・調査」とし、パワーポイントで編集した写真と図を中心にスクリーンに映し出し説明を加えた。

第1回目では、我が国には水産系と商船系の練習船があり、公私立大学、高等専門学校、水産高校等が、それぞれ漁船、商船、客船タイプの船を所有し、船舶職員養成教育及び水産・海洋並びに商船に関する研究・教育を行っていること、また、水産の研究・調査機関として独立行政法人水産総合研究センターがあり、その役割と所属船について紹介し、更に独立行政法人・海洋研究開発機構の役割と所属の調査船、潜水船等について概説した。後半では、これら三機関の船が協力して成し遂げた日本ウナギの産卵場所解明について詳述した。

第2回目では、練習調査船として最先端を行く豊潮丸の要目、搭載機器について調査研究・航海・機関・無線機器・室内設備に分けて説明した。その後、教育航海として屋久島・種子島海域での乗船実習と産出魚類及び他大学との共同利用について、調査研究航海として瀬戸内海から外洋にかけての表層から底層に至る海洋生物の系統分類学的採集及び有用整理活性物質開発のための潜水、タイドプールでの海洋生物採集航海を取り上げた。

第3回目では、日本を出港し海外に至り寄港するまでの航路選定、航法、船体設備・救命・消防設備の点検、気象・海象・安全情報の取得、税関・出入国管理・検疫検査等、船舶運航業務について説明し、過去に調査で訪れた中国・大連水産学院並びに乗船実習で訪問した韓国の4水産・海洋系大学及び水産科学院における教育・研究内容、施設等を紹介した。

第4回目では、瀬戸内海の特徴（地勢、気象・海象・海域・水深・潮流・流入河川等）に言及し、瀬戸内海の海面漁業、海面養殖漁業の魚種・漁獲量の推移、漁獲量減少への対応、日本最大の閉鎖性海域である、「里海としての瀬戸内海」を守るための生物生産学部の取組を紹介した。

この講座に関連して、広島大学付属練習船「豊潮丸」による[体験航海](#)を行った。